

平成30年度 学校評価表

品川区立鮫浜小学校

校長 松本 覚

鮫浜小学校校区教育協働委員会

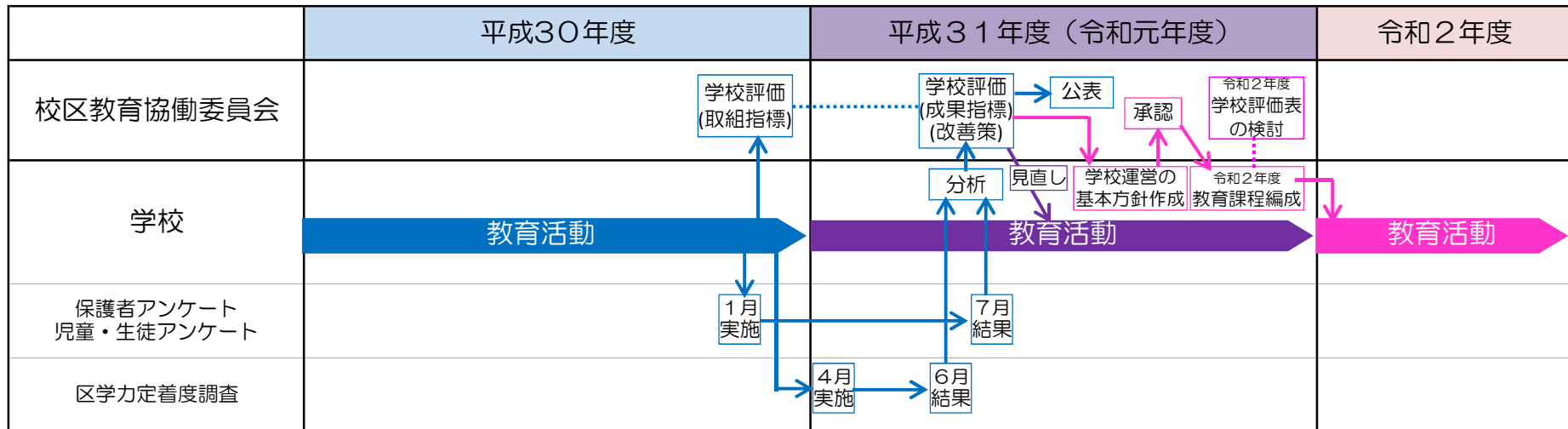
委員長 岡明 秀忠

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成30年3月30日教育長決定要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成30年度の学校評価が平成31年度（令和元年度）および令和2年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 (学力に関すること)

重点目標		(1)本校の学力のとらえ方 ○学力を、①基礎的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、その他の能力、③主体的に学習に取り組むための学習意欲・態度の三つの観点からとらえる。 (2)今年度の実践内容 ①基礎的な知識、技能習得のため、ステップアップ学習や単元テスト等、反復学習の徹底と放課後、長期休業中、家庭学習等を活発化させ、学力補充の充実を図る。単元テスト、学力テスト等により学力定着状況を検証しながら授業改善へとつなげる。 ②小中一貫教育を推進させ、学習規律の徹底、家庭での学習習慣の定着を図る。～学習規律(チャイム着席、あいさつ、学習準備、学習態度、忘れ物防止等)について全教員で共通実践する。 ③コミュニケーション能力の育成を図る。国語科を中心に、各教科、領域において言語活動の充実に重点を置いて指導し、思考力・判断力・表現力を育成する。 ④ICT機器等を授業で効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。 ⑤読書活動や作文活動を活発化させ、学力の基礎となる語彙力の向上を図るとともに検定へのチャレンジを奨励し、ステップアップにつなげていく。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的な学習規律(チャイム着席、学習準備、学習態度など)が身についているか。(8割以上の児童が身につけている。)	保護者の9割弱が、定着の評価。また、9割以上が学校の取組について評価している。 児童の8割弱が、定着の実感をしている。 教員の8割弱が、定着の実感をしている。	B	定着は図られてきているが、学年による、定着や指導のばらつきも見られる。 学習規律については、「鮫浜のきまり」を基本とし、要支援児童を配慮した上で、徹底を図っていく。
	教師は学習規律を定着させるよう意識して、発達段階に応じた指導を適切に行っているか。	・全体指導はしているが、個別に支援が必要な児童に指示が届かないことがある。支援教室とも連携して指導を徹底していく。 ・全教員が意識して取り組んでいるが、多様な発達段階の児童がいて対応し切れていない部分がある。 ・4月に比べると意識して行動できている。学習準備については、できている子とそうではない子がいる。	B	
②	区の学力定着度調査の結果が昨年度より向上しているか。または、全国平均値を上回ることができたか。	4年国語を除き、昨年度と比較して向上している。 4、6年の国語、4、5年の理科を除き、全国平均を上回った。	B	学力テストについては、経年推移においても全国平均値比較においても、全体的な向上が見られた。基礎基本の定着を今後も進めていくとともに、次年度からの新学習指導要領(新品川区教育要領)の全面実施を見ずえ、学習意欲を高め、児童が主体的に学ぶ授業の工夫改善を進めていく。
	教師はICT機器の活用や活動型の学習展開など、児童の学習意欲を高めるための工夫・改善に取り組んでいるか。	・ICT機器は意欲的に取り入れている様子が見られる。 ・デジタル教科書を算数、理科、社会において活用し、特に表やグラフ、写真や絵などノート等に中々素早く書き写せないようなものについて多用してきたため児童の学習意欲を高めるのには効果があった。タブレットをもう少し活用したかったところである。 ・ICT機器は特に算数においては毎時間活用することで児童の意欲が高まった。	B	
	個に応じた指導方法の工夫・改善に取り組むとともに、放課後、長期休業中など課外に行う学力補充活動を充実させているか。	・サマースクールの実施方法を個に応じた方法に見直した。MIM-PMをもとに放課後指導を行った。 ・低学年は、MIM-PMの結果に基づいて「読み名人」を行っている。算数は、放課後に補習を行っている。また、夏季休業中に学習相談会やサマースクールを実施しており、サマースクールでは、児童の実態に応じて個別指導や小集団指導を行っている。読み名人に参加した児童のうち数名において、MIMの数値が上がってきている。 ・長期休暇中に個別の宿題を出したり、放課後に個別に指導したりしている。ただし、放課後は時間の確保が難しい。	B	
③	9割以上の児童が家庭学習に取り組んでいるか。	・「さめはま学習帳」提出率は、1年10割・2年9割・3年9割・4年10割弱・5年9割・6年9割となっており、家庭学習の習慣形成に有効であった。	A	「さめはま学習帳」により、家庭学習の基礎的な習慣は定着してきている。今後は、発達段階や学級の実態に応じた+αの家庭学習の取り組みについて工夫改善を進めていく。
	教師は「さめはま学習帳」、ICT課題、各教科の宿題、自由学習、日記を織り交ぜ、毎日、各学年×10分以上になる家庭学習を児童に取り組ませているか。	・「さめはま学習帳」提出率は、1年10割・2年9割2分・3年9割2分・4年9割7分・5年9割2分・6年9割1分となっており、家庭学習の習慣に有効であることが分かった。 ・学習帳以外の宿題の提出率がやや低い。 ・家庭学習の時間が確保されていない児童がいる。保護者の協力体制のシステムを考える必要がある。	B	

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		(1)本校の社会性・人間性の育成に関する基本的な考え方 ○人権尊重教育を基盤に、自分を大切にするとともに、他者をも大切にすることの児童の育成を図る。9年間を通して基本的生活習慣の定着、規範意識の育成を図り、社会の一員として社会や集団のルール、マナーを守る態度を身に付けさせる。 (2)今年度の実践内容 ①「あいさつをする」、「規則を守る」、「約束を守る」、「役割を果たす」等の項目について、発達段階に応じた指導を展開し、徹底を図る。 ②市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面で相手の話をしっかり聞く態度(傾聴力)、自分の考えをはっきり伝える態度(発信力)の育成に力を入れる。また、相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気付かせる指導を行い、正しい言葉遣いや人間関係作りができる児童を育てる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	「あいさつ」が身についているか。(「あいさつをする」の項目について7割以上の児童・保護者等が肯定的な評価をしている。)	保護者の8割弱が、児童への定着を感じている。 保護者の8割強が学校の取組について、肯定的評価をしている。 児童の9割強が、定着の実感をしている。 教職員のほとんどが、児童への定着を実感している。	A	学校内外の「あいさつ」環境が整備されたことで、児童の意識は高まってきている。本年度より地域ぐるみで実施している「はまりようあいさつ運動」の取り組みも、地域の方々から効果的であったという声が寄せられている。今後も、市民科学習などと関連させながら定着を図り、児童会等の主体的活動などにつなげ、習慣化を進めていく。
	工夫した「あいさつ運動」を実施しているか。	・あいさつ運動やあいさつ名人の選出等の取り組みにより、あいさつをする児童が増えている。 ・あいさつ名人の選出は児童の意欲につながっている。 ・あいさつ当番、あいさつ名人の選出などの取り組みは実施している。生活指導朝会やふだんの学級指導でもあいさつについて指導を行っている。 ・代表委員会が集計し、全校朝会であいさつ名人を発表したことで、全体的にあいさつへの意識が高まり、児童からあいさつをすることが増えた。	A	
	市民科の授業や日常の指導の中で、「あいさつ」をすることの大切さを理解させたり、児童の「あいさつ」が定着する取組みをしたりしているか。	・授業や日々の指導の中で繰り返し指導している。 ・市民科の授業は丁寧に行っている。 ・授業であいさつをすることによって、友達と仲良くなってちょっとした問題も解決しやすくなった事例などを挙げ、意義を説いた。 ・あいさつの大切さや良さは市民科の授業で取り上げ、カードなどで自己評価をさせることで意識をさせることはできた。ただ、慣れない人や初めて会う人へのあいさつは分かっているができていない児童が多い。	B	
②	「規範意識」「役割意識」が身に付いているか。(「規則を守る」「約束を守る」「係・当番・委員会等の役割を果たす」の項目について8割以上の児童・保護者等が肯定的に評価をしている。)	保護者の8割以上が、児童への定着を感じている。 保護者の9割が学校の取組について、肯定的評価をしている。 児童の8割以上が、定着の実感をしている。 教職員のほとんどが、児童への定着を実感している。	A	規範意識の定着は徐々に進んでおり、全体的に落ち着いた学習活動が行われている。次年度は実態に応じて「さめはまのきまり」を改訂し、教職員、保護者、児童の共通理解を進め、「さめはまのきまり」を基準とした指導を徹底していく。
	「さめはまのきまり」を意識して指導を進めているか。	・児童・保護者に内容が周知されていない部分があった。 ・「さめはまのきまり」を学級ごとに設置しておき、全学級での指導を統一することができた。しかし、全校児童が実践できているわけではないので、長期的に指導していく必要がある。 ・「さめはまのきまり」を意識して指導をすすめ、ほとんどの児童が身に付けてきている。しかし、保護者会等に来る保護者の意識は高いが、そうでない保護者もごくわずかではいるので、どのように呼びかけていくかは工夫が必要である。	B	
	「時間・期限を守る」指導を徹底しているか。	・指導している。守れている児童もいるが、守れない児童もいるので、さらに指導を徹底していく必要がある。 ・意識はしているが、徹底するまではいかない。子供たちの自主性を育てるような指導を心掛けて、特に全校朝会や集会等、全校で集まるときは3分前行動を意識して、子供たち同士で声を掛け合うようにはなった。 ・チャイム着席等を自主的に行う児童が増えた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標				
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
重点目標		(1)本校の体力向上・健康の保持増進に関する基本的な考え方 ○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力の育成を図りながら体力向上につなげていく。 運動習慣についてはスポーツトライアル・ワンミニッツエクササイズ等も活用し、自ら日常的に取り組む姿勢が育つよう啓発していく。また、健康の保持増進に関する基本的な知識、生活習慣を身に付けさせるとともに、給食を好き嫌いなく食べたり、歯磨きなどの習慣づくりにも力を入れていく。 (2)今年度の実践内容 ①品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズなどを実践し、運動習慣づくりを進める。 ②チャレンジジャンプ週間、菜の花ロードランニング週間、なわとび週間を設定し、全員が体を動かす機会を設ける。 ③バランスのとれた食生活を身に付けさせるため、生きた教材として学校給食などと関連付けながら指導を行っていく。 ④児童会保健給食委員会と連携しながら、健康の保持増進に関する啓発活動(「歯磨き」「ハンカチ・ティッシュ携帯」等)を実践し意識の向上を図る。		
①	体力調査の結果が昨年度までの記録や全国平均と比較して上回ることができたか。	体力調査の体力合計点の平均は、1つの学年(男女とも)を除いて全国平均を上回った。(昨年度は男子の3学年、女子の2学年で下回っていた)	B	次年度より3年間、校庭が使用できない。体力の低下を最小限にとどめ、児童の体力維持を図る工夫をしていく。
	年間指導計画の工夫、日常の体育授業でのテクニカルアドバイザーの計画的な活用を含めた工夫した取組み、学級・学校で取組の工夫等を進めているか。	・計画通り進めている。 ・各学級の裁量で行っているため、差はある。テクニカルアドバイザーについては、計画的に進めている。	A	
②	運動の日常化を図ることができたか。休み時間に校庭や体育館で体を動かす児童を増加させることができたか。	児童の8割弱が、運動習慣の定着を実感している。教職員のほとんどが、体を動かす児童の増加を実感している。	B	外遊びの奨励、スポーツトライアル週間の取り組みなどにより、体を動かす児童は増加している。次年度より3年間、校庭使用ができなくなる。ワンミニッツエクササイズの奨励など、運動内容を工夫しながら、今後も取り組みを進め、運動の日常化を進めていく。
	ランニングやなわとびカードの取組み、ワンミニッツエクササイズ、スポーツトライアルの実施等、計画的に進めているか。	・計画的に実施されている。 ・期間を設けることで、意欲的に取り組むことができた児童がいる。 ・計画的に実施されているが、数値として成果が表れているかは体力テストの結果からの検証は難しい。	B	
③	年間を通した歯磨き指導により、歯磨き習慣を向上させることができたか。	児童の7割強が、歯磨き習慣の定着を実感している。教職員の7割強が、歯磨き習慣の定着を実感している。	B	歯磨き指導の導入により、全体として習慣化は進んでいる。しかし、指導内容の工夫や指導の徹底など、指導者側の姿勢にばらつきが見られた。今後は教職員の共通理解を進め、歯磨きタイムの設定や方法を改善し、定着を進めていく。
	健康の保持増進(早寝・早起き・朝ごはん、歯磨き、ハンカチ・ティッシュ携帯、健康診断結果の治癒率の向上等)を計画的に進めているか。	・歯磨きについては、歯磨きタイムを設けて全員できるように指導をしているが、十分定着しているとはいえない。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」については、学級通信等でも伝えている。 ・ハンカチ・ティッシュの携帯については、年度当初より、所持率が2割ほどよくなり、忘れる子が減ったがまだ十分とは言えない。 ・ゲストティーチャーによる指導を行うことで、さらに歯磨きへの意識が高まっていた。	C	

評価項目4 (いじめの防止の取組に関すること)

重点目標		(1)本校のいじめ防止に関する基本的な考え方 ○様々な人権問題について正しく理解させるとともに、あらゆる差別や偏見を許さない人権意識を高めていくことによっていじめを生まない土壌・校風をはぐくむ。 ○いじめはどの学校、どの学級にも起こりうるとの認識にたち、小さなサインを見逃さないよう児童理解に努める。 (2)今年度の実践内容 ①市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面で相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気付かせる指導を行い、正しい言葉遣いや人間関係作りができる児童を育てる。 ②様々な人権問題について正しく理解させるとともに、あらゆる差別や偏見を許さない人権意識を高めていく。 ③いじめ撲滅スローガンをもとに「いじめは、絶対に許されないこと」という意識を育てる。 ④生活アンケートやQUテスト等を通じていじめの早期発見に努める。			
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明		評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明			
①	教師は、「いじめは重大な人権侵害である」という意識を育て、自他の人権を尊重し、差別を許さない態度を育成する指導を、年間を通して計画的に行っているか。	年間計画に沿った、市民科指導や人権週間などの取り組みを通して、計画的に実施することができた。		A	年間を通して、計画的に進めることができた。今後も、いじめは「いつでも」「どこでも」起こる可能性がある事を念頭におき、当事者のみならず、人権意識や共生意識の醸成を計画的に進め、予防教育を行っていく。
	日常の人権教育や人権標語・ポスター作成指導を計画的に行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期初めより、国語科で標語につながる俳句の学習をし、市民科では人権に関する単元を学習して知識を広め標語作りに取り掛かった。 ・人権週間に児童一人一人が標語を作成することで、人権への意識をもたせることができています。 ・計画的におこなうことができた 		A	
②	いじめの早期発見に努め、いじめ発生事例について、全て組織的対応を行うことができたか。	いじめに関する発生事例について、すべて、「鮫浜小学校いじめ防止基本方針」に沿って、対応を行った。		A	今後も、保護者やSCなどの情報、アセスメントの結果分析などから、いじめの早期発見に努めた。教育委員会のHeartsや特別支援教室とも連携を取り、組織体制で解決に向けた取組を行っていく。
	生活アンケート、QUテスト、教育相談活動や校内巡回等を通じていじめの早期発見に努めているか。 いじめの疑いがある事例が発生した時は、すみやかに組織的対応を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の生活アンケートを児童に行っている。児童からの訴えがあれば、担任や生活指導主任、管理職、SCと連携し、解決に向けて対応している。またhiper-QUも学期ごとに実施し、児童一人一人の様子の変化に気付けるよう取り組んでいる。 ・アンケートやQUテストの結果を確認し、児童に聞き取りを行ったり、児童同士のトラブルや保護者からの訴えがあったりした場合には早急に組織的な対応ができるよう努めた。 ・生活指導夕会を通じて、配慮を要する児童を全教員で共通理解でき、いじめ等の対応について考えることができた。 		A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目 5 特色ある教育活動

重点目標		(1)本校の特色ある教育活動の基本的な考え方 ○コミュニティスクールとしての特色を活かし、地域と連携した教育活動を充実させながら、多様な人々と交流し豊かな人間関係が築ける児童、地域貢献活動に取り組む児童、目標の実現に向けて、粘り強く努力することができる児童を育成する。 (2)今年度の実践内容 ①地域ボランティアによる地域学習、学習支援等を通じて、地域との繋がりを体験的に学び、地域への誇りと愛着を育てる。 ②ボランティア活動(しながわ花海道プロジェクト、立会川美化運動、募金活動とお礼用銀杏作成)への取り組みを通して、地域貢献を体験的に学ばせる。 ③異学年交流班活動、東大井保育園との交流活動、祖父母・地域の高齢の方々との交流活動、中学校体験活動、外部講師の方々からの授業等を通して、多様な振舞い方を学ばせるとともに多面的なものの見方、考え方ができるようにする。			
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策	
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明			
①	地域ボランティアによる実技実習、地域学習、サマースクール時の丸付け支援等で学習効果を高めることができたか。また、校内外の活動見守り等により、安全で円滑な教育活動を行う事ができたか。	延べ313名の学校支援ボランティアの協力を得て、効果的に学習活動を進められ、校内外の児童の安全確保にも効果的であった。	A	CSの協力により、教育活動に着実な効果を上げている。今後も安定的に活動を行っていくためには、ボランティア人材、人員の確保が課題である。人材確保に向けた取組を工夫していく。	
	教師はより良い授業をするためや児童の安全確保のためにCSボランティア等を意図的、計画的に活用しているか。	・意図的、計画的に活用している。しかし、特定のCSボランティアに負担が大きい場合もあるため、活用の仕方は工夫する必要がある。 ・全校遠足等でCSボランティアを活用したことで、安全を確保でき、教員も安心して行うことができた。 ・年間予定を把握してくれているので、こちらが気付かなかったことなどまで教えてくださり、適切な対応をしていただけたことがとてもありがたい。	A		
②	しながわ花海道プロジェクト、立会川美化運動、品川かぶ栽培、銀杏募金等を計画的に行うことができたか。	全ての教育活動を、計画的かつ有効に行うことができた。 「花海道」の善行表彰、品川かぶの特別敢闘賞を受賞した。	A	次年度より建替工事により実施不可能な事業があるため、検討していく必要がある。「花海道」を中心とした地域貢献活動は定着しており、浜川中学校ボランティアの協力も得られるようになった。中学校につながる取り組みとして計画的に進めていく。	
	教師は地域環境を生かした学習を行い、児童の地域を愛する心や地域貢献への気持ちを高める工夫を行っているか。	・学校地域コーディネーターの力もあり、地域環境を生かした学習ができています。 ・運河でのコスモスの種まきは地域に貢献していると思う。 ・計画的にすすめるとともに、より良い取り組みが無いか子供たちに投げかけている。	A		
③	異年齢活動による目上への感謝の心や畏敬の念、目下への思いやりの心やリーダーシップを育てることができたか。	児童の9割強が、自己の感謝、思いやりの心を実感している。 教職員のほとんどが、児童の感謝、思いやりの心の定着を実感している。	A	異年齢活動は、リーダーシップやフォローアップの育成に効果を上げている。今後も、活動を工夫しながら、児童の主体的な活動となるように推進していく。	
	保育園との交流、全校児童による交流班活動、学年を越えた交流学習、クラブ・委員会・全校集会及び発表活動等が意図的・計画的に実施されていたか。	・計画的に進めていた。全員ではないが代表委員会や高学年を中心にリーダーシップを育てることができた。 ・意図的計画的に行うことができた。	A		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成